

# 東政行政視察記

横芝町長 佐瀬 哲司

## 美しい半島ギリシヤ

### 日本貿易の強さ確認

ブルガリアに別れを告げ、次の訪問国ギリシヤへ向かうため再びソフィア空港へ――

ソ連製百人乗りの旅客機は、定刻を四十分遅れて離陸、約一時間でギリシヤのアテネ空港へ着陸。

この空港は軍用と民間空港とを併用しており、迷彩色の軍用戦闘機やヘリコプターが見受けられた。

空港ロビーには、観光を主産業とする国だけに西欧、東欧、東洋人など、さまざまな人種が入り乱れて満員の状態だった。

また空港の建物も、この国の名産である大理石がふんだんに使用されており、中々に立派な建物で、入国検査も簡単に気分がよかった。

空港の外気は二十五度で暑いくらいであったが、真夏の最高時には四十三度にも上昇することがあるという。

またこの国の夏は長く、五月から十月ぐらいたま海水浴が可能で、夏休みも六月十五日から九月十五日までの三か月間もあるとの説明であった。

こうして我々を案内してくれたガイドは、アテネ在住十年という

日本女性であったが、これから二泊三日のアテネ中心の視察が始まるのである。

## 社会主義国

### への転換

ギリシヤ共和国は、昨年十月の選挙で社会党が政権を握り、現大統領が自由主義国から社会主義国へと急激な政策の転換を図っているとのことであった。

この国の面積は、日本の三分の一、人口は八百七十七万人、人口密度にすると六十六人と、ブルガリアと同程度の小国である。

地形は東地中海にせり出している風景の美しい半島で、無数の島から成っており、西はイオニア半島を隔てイタリアに、北はアルバニア、ユーゴスラビアに国境を接しており、東はトルコに相對している。

島と山が非常に多く、複雑で絶妙な風光をつくっている。さらにこれに加えて紺碧の海と一年中豊かな陽光がふりそそぎ、四季を通じて快適なエーゲ海と、イオニア



↑「日本製の自動車が目立つ、アテネ市内のにぎわい」

は紺碧の如くきれいに澄んでおり、青々とした海である。この海はあまりにきれいで、フランクトンが発生しないために魚類が息せず、「水清くして魚住まず」の通りで、四面海に囲まれた国でありながら漁業が成り立たず、日本からも魚の缶詰の類を輸入している。

この国の産業は果樹類が盛んで特にオレンジは安く、自動車に積み込み街角で一個十円で売っていた。その他オリブ油、ブドウ酒、たばこ、綿花などが主産業で、たばこは日本にも輸出している。

## 海運収入が第一位

国家財政の第一位は海運収入で、アメリカのケネディ大統領未亡人の再婚相手もギリシヤの大船主だったと記憶している。

そして第二位がヨーロッパ始め諸外国へ出稼ぎしている者の送金収入、第三位が観光収入であり、この外国人観光客は年間百万人もあり、日本人は十五万人程度で若い人たちが多いとのことだった。

また現地に住む日本人は七百人ぐらいたまいた。アテネ市付近には総人口の四割近い三百万人が密集して住んでお

## 男性天国

り、市内中心街は東京と同様に車と人で混雑しており、日本製の車が半数近くを占め、オートバイは日本製のものが多い。日本の貿易の先兵に、自動車・オートバイが世界を制している姿をこの目で確認することができた。

この国の人たちは日本人と比較して働かない人種のようにだ。一週間の内三日間は八時から正午まで、昼休みが二時間もあり、商店街は午後五時で一斉に閉店し週二日は午後二時で閉店する。

また土、日は週休二日制で休みとなり、日本と比べたら問題にならない。教育の程度は六年が義務教育であり、宗教は九十五パーセントの人がギリシヤ正教を信じている。またこの国では、最愛の夫や両親が死亡すると、女性は一〜二年間は必ず毎日黒の服を着る習慣になつており、男性は黒のネクタイを着用すること、街の中で実際に何人かの人に出会った。

また結婚する場合、女性は必ず男性のために住む家を用意する習慣になつており、女が生まれると一家で総力をあげて娘の結婚資金づくりのために尽すのだそう、正にこの国は男性天国である。

――つづく